

苦しんでいる人に手を差し伸べる

世界宣教の月 ③ 2017年10月15日



「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」

(ヨハネ15. 11～14)

福音宣教は身体的慈善のわざから

「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』」



（ルカ10, 30～35）

難民に関する 教皇フランシスコの呼びかけ

強制的な移住は、人類の歴史上いつも起こってきたが、今日ほど寄留の人々を歓迎する必要が生じていることはいまだかつてなく、それは経済危機や武力紛争、気候変動によって、空前の規模で人々が移動しているからです。

解決への唯一の道は、連帯を通してしかありません。私たち全員が力強い支え手となり、祖国や家族、仕事や尊厳を奪われた人々のために働くことができます。

不幸なことに、今日の経済危機を背景にして、歓迎ではなく閉鎖的な態度が助長されているのです。世界のいくつかの地域では、壁や柵などが作られています。閉鎖は解決策ではなく、むしろ犯罪的な人身取引を助長してしまうことになります。

（カトリック新聞 4361 号より抜粋）

福音のあかしびと

イエスの福音は「平凡」な人間を「良いサマリア人」に変化させる。「良いサマリア人たちは」人類の生き方を変革させる。有名な3名を簡潔に紹介します。



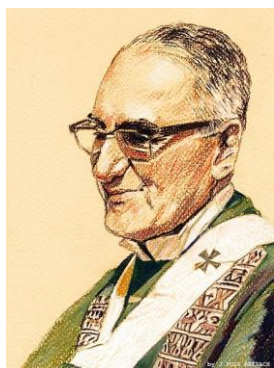
ネルソン・マンデラ

南アフリカ共和国を変えた人

アパルトヘイト体制を批判していたマンデラは1964年に国家反逆罪で終身刑となり、収監は27年にも及んだ。初めての自由選挙によって初の黒人大統領に選ばれ、白人・黒人間、そしてあらゆる対立をいかにして収めるか、さらに、全人種を融和させることに全人生を捧げた。1993年にノーベル平和賞を受賞。

ゼノ・ゼプロフスキー

“アリの町の神父”と呼ばれるゼノ・ゼプロフスキーは、マキシミリアノ・マリア・コルベ神父と共に来日しました（1930年）。半世紀にわたって日本の貧しい人々のために歩き続け、浅草のバタヤ街の人々を十字架の下に自立更生させた「アリの町づくり」は映画にもなり「アリの町の神父」として有名になりました。「白いヒゲ・黒の修道服に黒いカバン、黒いドタ靴」が代名詞のゼノさん。



オスカル・ロメロ大司教

オスカル・ロメロ大司教は、中部アメリカのサンサルバドルの大司教だった。厳格で簡素な生活、深い精神性で知られたロメロ大司教は、貧しい人々を愛し、人権を擁護し、軍事政権下のエルサルバドルにおける暴力や搾取、不正を告発し続けていた。1980年3月24日、ミサを捧げている最中に軍事政権によって暗殺された。「社会的福音」を実現するため、惜しまずに自分の命をささげた。

2015年列福されました。

主よ、私をお使ください

神のいつくしみを生きる力を願うマザー・テレサの祈り



主よ、今日一日
貧しい人や病んでいる人を助けるために
私の手をお望みでしたら
今日、私のこの手をお使ください。

主よ、今日一日
友を欲しがらる人々を訪れるために
私の足をお望みでしたら
今日、私のこの足をお貸しいたします。

主よ、今日一日
優しい言葉に飢えている人々と語り合うため
私の声をお望みでしたら
今日、私のこの声をお使ください。

主よ、今日一日
人は人であるという理由だけで
どんな人でも愛するために
私の心をお望みでしたら
今日、私のこの心をお貸しいたします。



アーメン。